



## 北京オリンピックは終わった

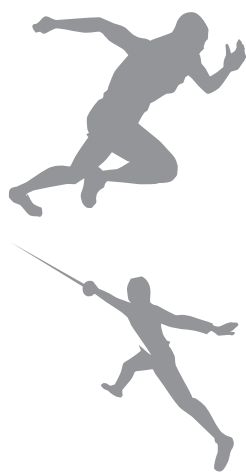
欲求不満に終わった日本の選手団も全員帰国し、漸く日常の話題からも消え去り、オリンピックも過去の思い出となりつつあります。

開催前の北京周辺には、テロや暴動などの不穏な噂が流れ、例えば元JOC会長の古橋広之進さんは報道機関に「開会式は危険だからテレビで見ると情けない暴言を吐くほど心配しておりました。しかし、空前の警察力とボランティアの協力によって、競技の進行はもとより、順調な経過を辿ることができました。

殊に、私達の度胆を抜いた開会式の演出は、全世界に「中国は今」の存在感を高らかに獅子吼した最高の舞台でありました。

同時に、例えば歌手と、流れた歌声が異なる例の「口パク」が中国共産党の幹部の指示であったと説明された時、私は一党独裁による「全体主義政治」の怖さを見る思いでした。

勿論、驚異的経済成長を続ける中国もまた内憂外患の山積するところであり、殊に年間10万件を数える紛争や暴動に、大国となった中国は如何に応えるのか、見守っていきたいと存じます。



## 劇団四季と県舞台芸術センター(SPAC)

北京オリンピックの開会式に挑戦するが如く、今、市民会館で開かれている「美女と野獣」の舞台もその華麗さももとよりや奇想天外の演出など、私達の度肝を抜くものでした。

勿論、入場料にしてもS席の10、500円は、容易に手が出ない高額なものでしたが、至る処で見える「美女と野獣」の広告と、観劇した知人の言葉に釣られた私は家内と友人の3人で出かけたのでした。

夏休み期間中ということもあって、若い親子連れが多く、隔月に訪れる市民劇場の客層の年代とは極端な開きがありました。それにしても、この「美女と野獣」は2ヶ月余りのロングラン、しかも66回の公演の殆どが満席という人気ぶりには驚くばかりです。

この劇団四季は何故か静岡が好きらしく、これまでも「キャッツ」や「オペラ座の怪人」などを上演して今日に至りました。

そんなことを想像していた私の脳裡に、反射的にSPAC(県舞台芸術センター)が浮かび上がりました。

県が日本を代表する舞台芸術を企図して10数年、莫大な県費を投入して、グランシップ内には専用劇場としての「芸術劇場」が、更に日本平には野外劇場や椿円堂など、他の劇団には利用させないSPAC専用施設が作られたのであります。恐らくその建設費は200億円を越えるものと試算しますが、残念ながら今なお、殆どの県民はそれが何処にあるかも知らないのであります。

しかも、軽減されたと云いながらも、毎年3億円以上の税金が投入され、しかも演ぜられる舞台は殆どの市民には理解できない前衛的、アンングラ劇場であります。

私はこれまで幾度かに亘って本会議の壇上からSPACの廃止を訴えてまいりましたが、遺憾ながら事業費の削減はあるものの、これを廃止する動きについては一向に埒が明かない状況であります。その原因は文化人を気取り、当局サイドに立って盛んに提灯をもつ極く少数の県議が邪魔立てしているからに他なりません。

更に糾弾すべきは、この「文化人」を気取る方々が本場にSPACの公演を支持しているのであるまいでしょうか。

自慢する訳ではありませんが、県会議員の中でSPACの舞台を一番見ているのは、ひよっとすると私ではないでしょうか。批判するにはそれだけの勉強と材料が必要と考え、これまでも折りあれば出かけてまいりました。

余談ですが、2年前前、本会議の一般質問の中で、私は石川知事に次のような企画を提案したことがあります。

既述したようにSPACの運営費は年間3億円余りであり、若し、本場に本県を「舞台芸術」の町と称されたければ、以下の企画は如何でしょうか。

事業費3億円を、日本を代表する演出家、例えば蜷川幸雄氏、野田秀樹氏ら5人を選んで、1人あて5、000万円の準備金のもとに、4月〜5月の2ヶ月間に、各劇団が競って10日間に亘って、ご自身の最高の舞台をこの芸術劇場(狭隘さに問題)で演じて戴ければ、恐らく2ヶ月に及ぶこの「舞台芸術祭」は全国的话题となり、もって大道芸以上の人気を博し、本県を「文化大県」と評されるものと確信致します。

如何でしょう、富士山静岡空港の開港を前にして、こんな「飛びつき」の興行も面白いのでは……。

# 浦野鋭翁の町名づくし

明治期、駿河学問所の教授や静岡師範静岡中学の教諭として、本市の教育に貢献された浦野鋭翁が明治八年に静岡の町名を詠んだ「静岡往来」なる文章に出会いました。

中々面白い文章ですが、長文ですので、2回に分けて掲載致します。

## 静岡往来

世に静岡の街をいえば、その数九拾六町に別れ  
東は横内、鷹匠町 沓の谷脱いで足洗  
人も貞松の蓮永寺 其名も高き愛宕山  
見るにこころも清水の 観音堂を伏拝み  
上下横田、松原や 足もしどろに曲金  
扱又辰巳は華陽院 御台所の丁過て  
鋳物師、院内、猿屋町 繫ぎ留たる伝馬町  
駅路の鈴の音たかく 向うに見ゆる八幡山  
門前町や宝泰寺 南は新谷、江川町  
瑠璃の色添ふ紺屋町 祇園の社 少将井  
流れて落る清水尻 打納めたる鍛冶町や  
宝を積し宝台院 未の方は万民の  
病を治する病院と 辺鄙の者に至るまで  
貴賤群集なすとかや 薬を乞も番付の  
日々栄ふる札の辻 綾とり懸し呉服町  
軒を並べし七間町 往来の人の中之店  
下石町を過行ば 賀茂の稲荷や水とりを  
飼置桶屋、江尻町 平屋、下魚打網の  
敷も三つ四つ藤右衛門 常慶町や寺町を

左になして新通 秋葉、染行紅は  
妻とふ鹿の毛皮町 安倍川新田、笠屋町  
さして廓の仲の町 春は花咲 二丁丁  
川原、松原、弥勒町 少しこなたへ申の方  
四つ足町や天神の 其御剣を研屋町  
上石町に本通 匂もたかき梅屋町

## 一寸一言 私の雑記帳から

### 宰相吉田茂の愛用した筆

30数年前、市会議員であり、自民党静岡支部の青年部長であった私は県連青年部主催のイベントに際し当時としては珍しかった「チャリティーオークション」を企画、青年部の資金開発を試みたのでした。残念ながら、今では、誰が、何処で何をしていたか殆ど記憶にありませんが、当時、自民党本部青年部長は前年の総選挙に当選したばかりの麻生太郎氏でした。勿論、彼が宰相「吉田茂」の孫であることは当時の新聞に大きく報道されていましたが、政界関係者は誰もが承知しておりました。

その彼が私達の要請に応じて来静されるとの党本部からの回答に、私は図々しくも、企画に彩りを添える意味からも、麻生代

春のながめや一華堂 建始めたる番匠の  
爰の住居や大工町 誓ひを懸し金毘羅の  
恵も深き川越町 堤添迄、歩み来て  
雲路を翔る西の方 駒も及ばぬ馬場町

以下は来月号に掲載します。

議士にチャリティーに出品する品物1点の寄贈を願ったのでした。

当日、代議士は大磯の吉田邸に立ち寄り、書斎から吉田茂が使用していた細筆を一本携帯して会場に來たのでした。

勿論、それはこの日の目玉商品とも云うべき一品でした。

500円から競り上がった筆の価格は遂に「万」の単位に突入、「2万円」の声を聞いた時、誰もが呆気に捉われ、戸惑っているさ中、私は好きな政治家「吉田茂」に自らの貧しさを省みず、本能的に「3万円」の声を上げていたのでした。

3万円は当時の市会議員の月額報酬の半分程度にあたり、決して他愛ない買い物ではありませんでした。

そんな経緯から、お宝とはいえませんが、我が家の引き出しに、「これは吉田茂の愛用した筆であることを証明します」の麻生氏の一筆が名刺の裏に記されて、誰に見られることなく仕舞われております。

## — 突然の辞任劇 —

9月1日の夜、何気なく、寝室のテレビのスイッチを入れるや、「間もなく福田総理の記者会見です」のアナウンサーの言葉、瞬間「辞職」の二文字が私の脳裡を掠めました。

なるほど、夏休みも終わり、臨時国会前の小休止のこの時こそ、総理が決断する最善の時間だったでありましょう。

鳩山民主党幹事長はじめ、野党のスポークスマンは一斉に「無責任」との論評、しかし、聞く耳持たず、ただ解散だけを叫ぶ野党の無責任な姿勢もまた国民不在の政治をつくりあげ原因であったと私は考えます。

「積年の芥もくた」をふり払う役職には、福田総理は「優しすぎた」のかもしれませんが、ご苦勞様でした。

## 『天野進吾』の歴史講座

町内会の集会、サークル活動などに天野進吾を呼んでみませんか。大変ありがたいことにこのSHINGO-SCOPEの郷土史が好評を頂いております。どうぞ、お気軽にお声掛けください。